

第1回 滝川市部活動の地域移行に関する連絡会議会議録

開催日時		令和6年8月5日（月） 午後6時00分から午後8時00分まで
開催場所		滝川市役所8階大会議室
出席者	種目団体代表者	滝川バスケットボール連盟 木下秀明氏 滝川軟式野球連盟 渡辺禎氏 滝川ソフトテニス連盟 斎藤寛氏 滝川サッカー協会 長田朋勝氏 滝川陸上競技協会 安楽良幸氏 滝川卓球連盟 経塚百合子氏 滝川バレーボール協会 菊田健二氏 滝川バドミントン協会 佐藤勇大氏 滝川音楽協会 鷺尾昌法氏 滝川美術協会 三宅敬氏
	市内中学校校長	江陵中学校 橋本展晴 校長 明苑中学校 渡辺禎 校長 開西中学校 濱本有未代 校長
市教育委員会職員		諏佐教育部長 福田教育部指導参事 佐藤教育総務課課長 杉山学校運営課課長 運上社会教育課課長 神馬教育総務課課長補佐 湯澤教育総務課係長

1 開会

2 教育部長挨拶

- ・部活動は、少子化が進み部活動の部員の確保が難しく、他の学校と合同チームを組んだり、部活動の活動が維持できないといった状況が出てきている。
- ・教員の働き方改革の視点からも部活動の改革が求められるようになってきている。
- ・令和2年度国から、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革ということで方針が示され、全国的に令和5年度から段階的に地域移行が進められているが、全国一律に進められるものではなく、全国の自治体が今試行錯誤で進め始めている状況にある。
- ・滝川市では、小学校にも部活動があり全国的に見ると少数。小学生の段階からスポーツや文化活動に携わるのは素晴らしいが、数を継続することは難しい状況になってきている。
- ・小学校の部活動においては、保護者や関係団体の協力、理解をいただきながら、先行して地域移行を進めている。指導者の確保は、関係団体協力なくしては進まない。協力いただいている皆様にお礼を申し上げる。
- ・本日の会議は主に中学校の活動をテーマとし、国や道の方針、滝川市の現状、特に学校現場の状況や今後の方向性などについて情報共有したい。
- ・各種目においては、置かれている状況が異なり一律に進めるというのは難しいため、個別協議を

進めるが、簡単に進むものではないことも承知している。

- ・市内の動きについて共通認識を持ち、共通課題が出てきた時にこの会議で情報共有や協議、調整をしたいと考えている。
- ・本日は、それぞれの立場から様々な視点で意見をいただきたい。
- ・地域の子どもたちにとって、より良いスポーツ活動、文化活動が継続できるよう理解と協力をお願いしたい。

2 部活動の地域移行の現状について

神馬教育総務課課長補佐から次第（１）（２）について資料をもとに説明

- ・資料No.1 「連絡会議概要」
- ・資料No.2 「国及び北海道の方針に関わる資料」
- ・別添資料1 「出席者名簿」
 - 2 「滝川市部活動地域移行アンケート調査結果」
 - 3 「スポーツ安全保険のご案内」
 - 4 「地域クラブ活動向け運営管理アプリ」

（３）について、市内中学校の現状について市内中学校校長より報告

（江陵中学校橋本校長）

- ・部活動の開設状況は、常設の運動部が8つ（陸上、野球、サッカー、バレーボール、バスケットの男女、バドミントンの男女、ソフトテニスの男女、卓球）があり、文化系の常設の部が2つ（吹奏楽と美術）が開設されている。
- ・この他、地域のスポーツ少年団等で活動している生徒が中体連大会に参加する際に本校教員が引率を行ういわゆる特設の活動として、今年度はアルペンスキーの特設部を設置している。
- ・7月末の時点での部活動の加入率は、全校で3年生も含めて67.4パーセント、3年生を除いた1・2年生は75パーセント程度の加入率になる。
- ・生徒数の減少とともに各部の部員数も減少傾向にあり、かつてほど全道大会に出場することは多くない。
- ・部活動の課題として、部員数の減少により単独では維持が難しい部が出てきていること、サッカーやバスケットボールの女子は、合同を組んでる他校の部員不足で合同を組んでいる状況で、野球部も新チームからは合同チームを組まなければ大会に出場ができないというような状況になっている。
- ・各競技や吹奏楽の専門の指導者の確保が今後課題になってくるだろうと考えている。今年度は指導経験のある専門の指導者を各部活動の顧問に配置できているが、今後、教職員の定年退職や人事異動で専門の指導者が不在になることも考えられる。
- ・以前のように、部活動を中心に人事異動をやる時代ではなくなってきたため、人材を確保することも困難になってきている。
- ・教職員の長時間労働が非常に深刻な課題で、北海道が掲げている月ごとの教職員の時間外勤務を大幅に上回っているような状況。
- ・休日を除く平日の平均の時間外勤務時間は40時間を切っており、休日の部活動が、時間外勤務の主たる原因で、どう改善していくかが非常に大きな課題になっている。
- ・これまでは多くの中学校で部活動を教育活動に位置づけ、校長が全教職員の理解を得て各部の

顧問として配置する体制を取ってきたが、今後は、先生方から、部活動を担当することを希望しませんというような声が出てきた時に、顧問を担わせる法的な根拠もないので、わかりましたと言うしかないような状況。

- ・部員数だけではなく、顧問の配置の問題からも、部活動の維持が今後も色々な課題となる可能性があると考えている。

(明苑中学校渡辺校長)

- ・部活動は法的な根拠があるものではなく、中学校体育連盟が、2027年度以降は9種目の全国大会を中止にするということ。今後は30パーセント程度大会規模を縮小していく取り決めがなされているよう。
- ・予算や経費の減少の他に、野球に関しては、30パーセント削減となると、北海道の代表が1チームということにもなり得るだろうという予想している。
- ・学校の年間の教育課程の中に、部活動を通して子供たちを健全育成しようという考えのもとに全教職員で部活動に取り組み指導すると学校で決めており、教職員は全員何かしらの部活動に担当となっているのが現状。
- ・土日家庭を犠牲にしながら、18時くらいまで部活動の指導をする教職員もあり、長時間労働に結びついてる状況。教職員の部活動の手当は平日には全くごなく、土曜、日曜は、3時間以上勤務した場合に2,800円の手当がある。
- ・部活動と並行して子どもの心を育てたい、学校の教育活動として部活動をやっていききたいという熱い思いがある教職員と、仕事なのかという疑問を常に持ちながらやっている教職員、その中間の考えの教職員がいる中で、日々活動を行っている。

(開西中学校濱本校長)

- ・開西中学校の10年前と今と比較すると、全校生徒が、10年前は190人、現在は130人で60人減
- ・部活動は、野球、卓球、バスケ、テニス、吹奏楽と美術で6部活動があり、10年前は陸上があった。
- ・加入率は7割前後を推移、部員数は、卓球は、10年前は男女あわせて24人が現在は18人、新チームもようやくなんとか団体戦はできるかなというギリギリのところ。
- ・テニスは、29名いたところが22名で、男女ともになんとか団体もできるという状況。
- ・人数が必要な野球部は単独ではチームができず合同チームとなる。
- ・バスケットは、10年前は男女で32人いたが、今は14人になり、近隣の学校と合同のチームを組むことになっている。
- ・吹奏楽は、10年前のB編成からC編成となり、22名になった。
- ・美術は、14人いたが今は5名で、細々とした活動になってしまい、団体協議を希望する生徒に対応できない現状がある。
- ・部活をするならこの6つの中から選ぶしかないという状態で、非常に選択肢が狭い。
- ・滝川の子どもたちの可能性を最大限に引き出し発揮できる環境を、地域の大人が想像していける場にこの会議がなればいいなと思っている。
- ・滝川の大人は、子どもたちの育成にみんなで取り組んでいる姿を見せ、部活動だけではなく放課後の子どもたちの活動が、これもあれもやってみたいとなってくるといいなと思う。
- ・子どもを中心にしたいことを実現できる放課後活動を話し合う場になるといい。

(司会)

- ・すでに生徒数もかなり減ってきて、複数の学校ですでに合同で活動しているという状況もあるよう。中体連の全道、全国大会の在り方もどんどん変化し、教職員の観点からは、負担軽減の部分もこれから出てくる話があった。
- ・続いて事務局から、滝川市における部活動の方向性と取組について説明する。

(3) ①地域移行のイメージ

②取組（アンケート調査、種目別協議、全体の協議）

③地域移行期間に行う予定のもの

④今後の予定

について教育総務課神馬課長補佐から資料に基づき説明

※資料No.3「滝川市の取組等に関わる資料（イメージ、取組、今後の予定）」

【質疑応答】

(滝川美術協会三宅氏)

- ・僕が勤務してた時代は、美術の時間が当時は2時間ずつ全学年にあったのが、週1時間ぐらいに減ってきているそう。
- ・以前は指導する先生を人事異動で確保するというも行われていた。その時美術部は設置されていなかったが、クラブ活動というのは今行われているか。

(江陵中学校橋本校長)

中学校はもうない。

(滝川美術協会三宅氏)

- ・部活動は、活動した成果を中体連の大会で発揮するという目的もあると思うが、美術に関して大会はない。高校に行くと出展する場があり、それを目標にして授業とクラブ活動を行うかもしれないが、中学校では、部活動に入ってまでやるか、チームとして何かをやるような種目でもない。
- ・市の美術館に大きな集団で制作した作品を毎回部活動の子どもたちが取り組んで、美術自然史館の行事を盛り立てるような活動や普段日常的に個人の作品作りなどを見せてもらっている。
- ・地域の指導者を派遣する場合、滝川美術協会には人材がいないと思っている。美術の場合は、何か教えないとダメというわけではなく、部活動の活動を見守ることならできる人もいるのかもしれないが、美術に関してはなかなか厳しいものがある。

(滝川陸上競技協会安楽氏)

- ・地域移行ということで、都会ではクラブチームなどに移行しているが、滝川でスムーズに行くのかなと思う。
- ・地方は団体競技も厳しく、陸上は個人競技なので比較的やりやすいところはあるが、補助金は滝川市立学校文化・体育大会派遣奨励費しかないということで、地域移行した場合の指導者への報酬、保険料、施設利用料は地域活動団体で支出になり、金銭的な負担が大きくなると考える。
- ・国、道、滝川市がどこまでカバーできるのかということが具体的に決まってるのか聞きたい。

(事務局)

- ・補助金に関しては、国や道の補助金が基本的には地域移行期間に関する補助金で、移行期間において指導者のためにかかる人件費やコーディネーターにかかる人件費が主なものになる。
- ・市として、それらを最大限活用しながら、移行期間中は補助をしていきたいと考えている。
- ・地域移行後は今のところ明言できない状況で、市の単費で負担するのか等財政担当と協議しながら検討を進めていくが、基本的には受益者負担を理解いただかなければならない部分は出てくると考えている。

(滝川陸上競技協会安楽氏)

- ・地域移行の問題はもう1つあると考えており、今の中学校の部活動は、貧困家庭の生徒でもある程度の参加できるが、地域移行になって親の負担が大きくなった時に、やりたくてもできない子どもが出てくると思うので、その対応も考えていただきたい。

(事務局)

- ・ご指摘いただいたような課題はあると思う。希望する特定の競技というよりは、もう少し幅広いスポーツや文化活動ができるような場を、イベント的に用意するとか、やりようは色々あると思っているが、種目ごとにどう移行できるかというのをまず考えていきたいと思う。
- ・並行して、そういった子どもたちがどういう受け皿で活動が続けられるかというのは、社会教育の分野になると思うが、考えていきたい。

(滝川軟式野球連盟渡辺氏)

- ・拠点校部活動と合同部活動をきちんと理解するべきと思う。拠点校部活動の活動も合同部活動の活動も、中学校体育連盟のルールの中にできた制度。
- ・合同部活動は、それぞれの学校にある部活動が合同で活動するもので、野球部同士で繋がるともの。
- ・拠点校部活動は、ある一定の地域の中で1つの学校を拠点校として、部活動のない学校の生徒が拠点校の部活動に参加できるというもの。
- ・どちらも部活動なので、学校から資金面で面倒見てもらえ、地域移行のプロセスの中の1つにはなり得るが、そこから先が大きな課題だということを理解しなければならない。
- ・種目によって移行の方法はいろいろあり、野球ならば、平日はそのまま、休日のみ市内の3中学校で合同部活動をする予定になっている。
- ・平日は一緒に練習するのが難しいのでそれぞれ練習して、週末には練習試合も兼ねて、家で練習もしてという流れにしかないかなと思っている。
- ・奈井江町以北で5チーム編成となっていて、野球連盟は新十津川町も合わせて滝川の野球連盟を組織している。
- ・連盟で地域移行を考えていくなら、広域で地域移行を考えていいのか。

(事務局)

- ・広域連携という観点からも、地域移行の話し合いを始めており、課題はありますが、整理しながら進めていきたいと考えております。連携する市町村と相談することにはなりますが、実現するような形で協議はしたいと考えております。

(滝川音楽協会鷺尾氏)

- ・部活動は生徒にしてみれば、逃げ場だったり、担任の先生とは違う部活動の先生から生活上の指導あるいは勉強の指導を受けている面もあり、なくなっていくことを非常に心配している。
- ・滝川市として国の流れに逆らって地域移行は積極的には行わないというような宣言をしてもいいのではないかと考えている。
- ・ものによっては部活動が成り立たないところに関してはどうしたらよいのかということを我々に投げかけてくれると、非常にありがたいし、対応も取りやすいんじゃないかと思う。
- ・中学校から部活動は完全になくすというような雰囲気のマチづくり、教育活動を進めていったら、滝川市の魅力はどこにあるのかと心配なので、市あるいは学校としてしっかり協議をしていただきたい。
- ・校長先生方は本当に部活動をなくそうとしてるのか、それが本音なのかというところをしっかりと聞きたい。
- ・法的根拠や報酬の問題が非常に大きいと思うので、行政としてはどう考えていくのか、ガイドラインや整理してやってますよというようなものがあっていいと思う。
- ・報酬の部分もやるならやるというのを示し、現場の先生方と教育委員会の方でしっかり詰めていただきたいと思う。
- ・問題は、本当に部活動を廃止する方向で行くのか、吹奏楽の活動ができなくなったらどうするかということを個別の問題で進める分には理解できるが、全体の問題として進めるのはどうなのかという疑問がある。

(事務局)

- ・ご指摘の通り、地域移行は大変難しい問題で、種目ごとに状況も様々なので一律に進めるというのは市としては考えていない。
- ・協議の結果どうしても地域移行できない種目が出てくるのではないかと想定している。その時は無理やり地域移行するという考えではなく、どうしたら子どもたちの環境を整えていけるかというような方向でご相談させていただきたい。

(滝川音楽協会鷺尾氏)

- ・学校の部活動を積極的に支援しようというのと全然話が違ってくると思うので、今指摘した問題点の解決を含めて、頑張ったけどこの部分に関しては無理だったねということならいいが、何もしないで時期を待ってこちらに振ってくるっていうようなことは、どうなのかと思う。

(事務局)

- ・ご意見を踏まえて進めていきたい。

(江陵中学校橋本校長)

- ・目標は、持続可能な子どもたちのスポーツや文化活動の場をどう確保していくかということが1番大事で、それが置き去りになり、国の言うとおりにやらなければとなるとおかしいことになり、経済格差によって活動ができない子どもが出てくるとすれば、本末転倒だと思う。
- ・学校の様々な事情があり、バランス取りながらやるのも難しいと思う。校長の立場からは、先生方が次年度部活動の担当を遠慮しますとなったら配置できない事態が来るのではないかと考える。

- ・うちの学校は、僕から部活を取らないでという先生がいっぱいいるので、そういう先生方も生かしながらどう子どもたちの持続可能な活動の場面を作っていくかを知恵を出し合えば良いのではと思う。

(滝川バドミントン協会佐藤氏)

- ・地域移行を我々に検討してくださいという場合、指導する方がいたとしても、場所や時間の問題があり、時間はほぼ夜間しかできないと思う。
- ・学校開放もしていない中、スポーツセンターなどが夜間の時間帯は空いていないので、教育委員会とスポーツ協会で調整するか、学校を開放して各種目ごとにしきりをするかという問題も出てくると思う。
- ・指導者への報酬が本当になかったら、指導者がいたとしてもやれないと思う。金額の問題は大きく、補助金も実費を補えるような金額ではないため、できませんという答えしかないと思う。
- ・バドミントンの場合、滝川市内の中学校で一緒に練習している生徒もいるが、新十津川町の生徒は指導しない方針なのか、連携してやってもらえるのか。
- ・地域移行するには全てが負担になるというように見えるので、多分手を挙げる人はいないと思う。

(事務局)

- ・市として潤沢な財源があればやりたい気持ちはあるが、厳しい財政事情もある。
- ・ただお願いしますというのも難しいと思うので、協議を重ね皆さんの意見を聞きながら決定したい。
- ・報酬面は時間を要することだと思うが、教育委員会として、例えば学校施設や公共施設の利用に関しては、移行期間は少なくとも協力したいと考えている。

(明苑中学校渡辺校長)

- ・私が以前働いていた長沼町は、バドミントンの人気が高く、中学校の先生での対応が大変で、バドミントン協会が、小学生・中学生・高校生を対象に、土曜日の午前中に体育館を借りて活動するという取組をした。
- ・協会の方が指導することで学校の先生が助かり、子供たちがメキメキ力をつけてきたということがあった。
- ・ソフトテニス部がやっている取組のように、とりあえず休日だけでもよく、今のところはがっちり地元の協会ですべてやってほしいというイメージではなく、もし指導をやりたいという方がいらっしゃれば、立ち上げてもいいのかなと思う。地元の競技団体としてはそういう関わり方がベターなのではないかと思っている。

(滝川市バレーボール協会菊田氏)

- ・バレーボール人口が非常に少なくなり、中学校の新人戦はチームが組めるか組めないかというような状況まで落ちている。
- ・先生方も土日もなく協力していただいて感謝しているが、地域移行となった場合、指導者の選任の問題があると思う。

- ・アンケート調査結果より、子どもは楽しく部活動をしたいて思っている親が熱心なら、楽しみたいのプランの活動には参加しないのではないかと。また、社会性を身につけさせたい保護者が多いが、試合となると勝負にこだわると思う。
- ・どのレベルの指導者（参加することに意義ありの指導者と全国を目指す指導者）を地域の指導者として選定すればいいのか非常に難しいと思う。
- ・現在の部活動のように学校教育の延長線上で、下手で努力してもうまくいかない者も、飛び抜けた者も、チームプレーとして頑張っていく中で心身を鍛え養うというものであればよいが、地域移行になるとこれらのことも保護者に理解を得て協力してもらう必要があると思う。

4 各団体の状況報告

（滝川バスケットボール連盟木下氏）

- ・市内3中学校にアンダー15のカテゴリーとして男女それぞれ存在してる。
- ・少子化や競技人口の減少により、滝川市外の中学校との合同チームを編成し、練習や大会に出場している。
- ・江陵中学校の女子が芦別中学校の女子と合同チームとして出場し、土日の練習は芦別か滝川で練習し、保護者が送迎している。
- ・開西中学校は、今年度は砂川中学校と合同になると聞いている。
- ・小学校のミニバスケットボールは、昨年、滝川第一小学校と滝川第二小学校が、部員数の減少から廃部になり、そこで活動していた子どもたちや部活動に入れない低学年の子どもを中心に1つのクラブチームを設立した。
- ・現在活動しているその他の小学校の部活動で、バスケットボールの地域移行について各学校と保護者の方で話し合いをしている状況と伺っている。
- ・前述のクラブチームの代表を私がしており、お金の話や送迎の話が出てきている。
- ・指導者は男女合わせて7名いてもきつい状態。練習は週に4回で月、水、金の夜6時から8時の間で、滝川第一小学校と滝川第二小学校の体育館を借りて活動してる。
- ・男子が第一小学校の時は女子が第二小学校で練習し、これを週替わりで練習している状況。
- ・全道大会に行く時の旅費は保護者負担で、今まで学校の部活動としてやっていた時にPTA会費や学校の部活動で補助されてた部分がなくなった。
- ・貧困家庭でバスケットボールをやりたいけどやれないという課題が出てきていると思う。
- ・全国の中学校でバスケットボールの部活動が1番人数が多いが、北空知に関しては減少していると聞いている。

（滝川軟式野球連盟渡辺氏）

- ・軟式野球と硬式野球のチームがあり、連盟は大会を手伝いする形でローカルな大会の審判業務をしたり、連盟の大会を主催するが、昨今チームが少なく、明苑中学校と江陵中学校は秋から夏の中体連まで1回戦で4回当たった。
- ・毎回対戦相手が同じになることが多く、大会を増やしてもどうなのかという現状。
- ・野球連盟自体も、学童、中学生、一般、シニア、還暦女子野球などがあり、1週間に3つぐらい大会が重なることがあります。

（滝川ソフトテニス連盟斎藤氏）

- ・滝川に新しいテニスコートを整備していただいたことに感謝する。
- ・8月3日に1回目の試行を行った。明苑中学校と江陵中学校で1年生、2年生を中心に50名くらい、朝9時から12時、10月まで、指導するメンバーは、2回目は大体10人くらい集まる予定。
- ・これまで出てきたような基本的な問題は、理事会でも話題になっているが、試行に協力するという形で進んでいる。
- ・私自身も一部分を担当しているが、1年生がテニスに出会える楽しさを実感してくれ、教える私も感じられて良かったと思っている。
- ・報酬のことなど解決しなければならない課題もありなので、検討していただきたい。

(滝川サッカー協会長田氏)

- ・私は北空知地区の協会の役員をしており、その中でチーム数がどんどん減り、今学校では運営できなく、11名そろえるのは難しいという現状でやっている。
- ・滝川市内で拠点校のような形で活動することで、チームを減らさないようにしていきたいということからスタートした。
- ・地域移行する方向であれば、クラブ化の方向で考えなければいけない、ステップアップしていかなければと考えているが、いきなりクラブ化となると、部活動の中体連のチームはクラブチームとレベル差があるので、住み分けをしたいと思っている。
- ・拠点校のような広域を作り、子どもたちが入ってこれる環境を作ってあげたい。
- ・クラブチームでは移動は普通に保護者負担で行っている。部活動の場合、このまま生徒の人数が減っていけば、中体連のチームができないので、できるようにしていきましょうよということ。
- ・お金の面は、拠点校方式であれば、市や学校が面倒を見てくれるので、そこは少しクリアできるかなと思う。教員も入ることができるので、拠点校方式を挟んだ上で、クラブ化できないかなということを探っていきたい。
- ・何もできないと言って、どんどん部活動の団体が消滅してしまっていて、クラブになって、今滝川市内でサッカーをやっている30人から40人の子どもたちが、11人の枠から溢れてしまうということのを少しでも避けたい。
- ・拠点校方式や広域でできないかということ滝川市にお願いしていて、新十津川町芦別市と江陵中学校がチームを組んでおり、そこで拠点校方式を考えたい。
- ・北海道で自治体を越えて拠点校方式を実施しているところはあまりないが、できないかなということで、(サッカーの)3種と話をして動けないかなと考えている。

(滝川陸上競技協会安楽氏)

- ・小学生対象の任意の滝川陸上クラブというのを作っており、15名が月・水・金夏場に陸上競技場で活動している。
- ・冬は空いている体育館を使って指導している。この任意のチームでは親が競技者として育てたいということで、年会費1万円をいただいている。
- ・陸上競技は種目がたくさんある。審判の資格を持った先生は色々な種目を経験するため、ひと通りわかるので指導ができるが、高齢化でその審判の資格を持った先生が今いなくなってきてというのが現状。
- ・協会の中でしっかり協議する必要がありますが、将来的には今小学生がやっている陸上クラブに

中学生も入れて1つにしたいが、報酬の問題などいろんなものが出てくるので、それを何とかクリアできないかなと考えている。

(滝川卓球連盟経塚氏)

- ・滝川市の他に、芦別市、新十津川町、奈井江町、浦臼町、歌志内市、赤平市、砂川市の7市町が集まって滝川支部になり、今年度の登録数は270名前後、昨年度と同じぐらいです。
- ・滝川市内の中学生の登録数が75名で明苑中学校が多く38名、江陵中学校17名、開西中学校20名となっている。
- ・地域移行するとなると、場所の確保の点からも1つにまとめるのはちょっと考えられない状況で、学校の体育館を使用させてもらう形を取らなければ、練習できない状況。
- ・各市内の3校の学校の卓球の顧問の先生は卓球をやる先生で、大会にも参加している。
- ・部活動の中の指導員として、卓球連盟から適当な人を探しながら入れていきたい気持ちはあります。
- ・平日は皆さん働いているので、厳しい状態。1名だけやるなら全道全国を目指すチームを作りたいという人がいたので、1年ぐらいならできそう。
- ・各学校に1名いれるとしたら、もう少し具体的なことをわからなければ話を進めていけない状況。時間の問題や金銭的なこともあるが、1番はやっぱり時間だと思う。

(滝川市バレーボール協会菊田氏)

- ・小学生のチームはなく、中学校は江陵中学校と明苑中学校、滝川高校女子、滝川西高等学校男女に部活動がある。
- ・先生以外に指導資格を持ってきちんと指導できる人が少なく、審判の資格を持った人も先生に依存しているため、これから地域移行の方針やアンケートの状況などを踏まえて検討を進めていく必要があると考えている。

(滝川バドミントン協会佐藤氏)

- ・アンケートの結果でこだわってやりたいという生徒には、成績や結果を認めていくことになると思うが、今中学校の顧問をしている先生方が言いにくい環境なのではないかと感じている。
- ・子どもたちの方が、良くも悪くも自己主張をする状況の中で、地域移行に向けた取組期間に、教育委員会や校長からも働きかけて、顧問の先生たちが指導しやすい状況にしていきたい。
- ・金銭的、労働時間以外の部分の精神的な部分も負担軽減にはなるのではないかなと思う。

(滝川音楽協会鷺尾氏)

- ・滝川吹奏楽団という観点でお話すると、50年以上経つ団体で、過去に全国大会に行った。
- ・私も江陵中学校で全国大会に行った経験から、全国大会を目指すということはとんでもなく大変なことで、それについてこれる生徒でなければということ、滝川吹奏楽団が全国大会に行く場合も、大変な練習量、お金もかかる。
- ・1回は、東日本大震災の時に、北海道の代表が3枠、コロナ収束で、強豪校が出てこなかったという状況だったため、ぬるい練習でも行けました。滝川吹奏楽団の実力があるのかということそうではないなということをご理解いただきたい。
- ・演奏会やコンクールは、小学生でも幼稚園児でも我々と一緒に出ているが、高校生を受ける時、

部活に入れない理由がなんなのかということや、本人の技術のオーディション、親の面接もして、クリアしたものだけしか入れていない。そうすることで、学校の部活動を邪魔したくないということと、私たちは教育機関ではないんだということを親に十分理解してもらって活動をしている状況。

- ・滝川吹奏楽団のメンバーが、オフシーズンの冬場に子どもたちを集めて指導しているが、私たちは教育機関ではなく、メンバーや外部に対して、技術は指導できるけど先生とは違うということをはっきりさせている。
- ・子どもとの個人的な繋がりの中で何かを教える場合は、親を介することを理解してもらい、厳しくやっている。
- ・地域移行になった時に、私たちは教員ではないんだということが引っかかっています。技術を教えるだけなら全然問題ないが、どこまでそこに関わることができるのかっていうのは大きな課題だと思う。

(滝川美術協会三宅氏)

- ・会員が最大 50 名近くまでになった時があるが、現在は 30 名切っている。年齢層も以前は幅広くいたが、新しく入った 1 番若い人が 30 代 2 人、その次が 50 代で 2 人、60 代、70 代、80 代、90 代の何人かいる状態で推移してきている。
- ・美術協会は、自分が入りたいと思って入ってきて、協会展という年に 1 回ある展覧会に出展することを目指して、会員として活動している。
- ・作品を出す中で、お互い切磋琢磨しながら刺激し合っているが、絵を習うために教室に通ってそこに出品する人も一部る。
- ・部活動の指導者となる人が、現状ではほとんどいないのではないかというのが実態。
- ・部活動は種目によって違いますが、運動部で毎日のように活動して正月 3 日間だけ休むというような風には美術の場合はならないと思うが、週 1 回ぐらいの部活動だとどうなのか、そこに指導者をお願いする時にどうなるのかなどの悩みを抱えているというのが現状。

5 その他

(事務局)

- ・今回は、12 月ぐらいに第 2 回目の連絡会議、2 月頃に第 3 回目の連絡会議を開催したいと考えている。
- ・部会に関しては、サッカー、ソフトテニス、軟式野球ということでスタートしたいと考えている。

6 閉会